



全国に直営校舎を持ち、圧倒的な存在感を示す

富士学院に

医学部合格実績他

**良医を育む
様々取り組みについて
聞いてみた**

医学部合格実績他

良医を育む

様々取り組みについて

聞いてみた

2019年新たに大阪校と東京にも
もう1校舎開校されたんですね

はい、2019年の1月に2校同時に新規開校しました。大阪校は関西地区初の出校で、東京十条校は、御茶ノ水校に続く東京地区2校目として出校しました。

大阪校については、ここ数年間い合わせが多かったのですが、ようやくその期待に応えることができました。十条校は御茶ノ水校の生徒がいっぱいになってしまったので、都心から少し離れた所に、地方からの生徒も安心して勉強できる立地を考えて十条に開校しました。

両校共、一年目から予定通り生徒も集まり、もう既に推薦入試での合格者も出ています。

大阪校については、ここ数年間い合わせが多かったのですが、ようやくその期待に応えることができました。十条校は御茶ノ水校の生徒がいっぱいになってしまったので、都心から少し離れた所に、地方からの生徒も安心して勉強できる立地を考えて十条に開校しました。

両校共、一年目から予定通り生徒も集まり、もう既に推薦入試での合格者も出ています。

はい、2019年度は国公立・私立を含め、のべ284名の医学部医学科の合格者を出しています。合格者実数は173名で、医学部医学科の専願者が333名おりましたので、合格率としては52%で、今年もお預かりした生徒の2人に1人が合格しており、合格率は85%です。

2019年度入試も高い合格率を維持することができました。現在2020年度の推薦入試や編入試験の結果も続々と判明していますが、12月12日現在で既に67名の合格者が出ています。この実績は

改めて2019年度入試の結果を教えていただけますか？

2019年度は国公立・私立を含め、のべ284名の医学部医学科の合格者を出しています。合格者実数は173名で、医学部医学科の専願者が333名おりましたので、合格率としては52%で、今年もお預かりした生徒の2人に1人が合格しており、合格率は85%です。

2019年度入試も高い合格率を維持することができます。国公立に関しては、専願者39名中、33名が国公立医学部医学科に合格しており、合格率は85%です。以上の医学部医学科への進学者を出すことができました。国公立に関しては、専願者39名中、33名が国公立医学部医学科に合格しており、合格率は85%です。2019年度入試も高い合格率を維持することができます。現在2020年度の推薦入試や編入試験の結果も続々と判明していますが、12月12日現在で既に67名の合格者が出ています。この実績は

ここからは富士学院独自の取り組みについてお聞きしたいと思います。まず大学のオープンキャンパスの中でも、入学の入試問題の解説を含めた入試対策講座を行い、とても好評だったということで、2019年も大学からご依頼があり、9月1日（日）に行われたオープンキャンパスの中の一つのプログラムとして、入試対策講座を富士学院の精銳講師陣で行いました。

また、2019年は新たに藤田医科大学からのご依頼もあり、6月1日（土）の春のオープンキャンパスと8月3日（土）、8月17日（土）に行われた夏のオープンキャンパスの中で、同じく入試問題の解説を含む入試対策講座を行いました。両大学共にたくさんのお客様が参加され、大変好評を博した対策講座になつたと思います。

はい、2018年は久留米大学医学部のオープンキャンパスの中で、久留米大学の入試問題の解説を含めた入試対策講座についてお聞きしたいと思います。

まず大学のオープンキャンパスの中でも、入試対策講座を担当されていると聞いていますが、詳しくお話ししていただけますか？

はい、2018年は久留米大学医学部のオープンキャンパスの中で、久留米大学の入試問題の解説を含めた入試対策講座を行いました。同じく入試問題の解説を含む入試対策講座を行いました。両大学共にたくさんのお客様が参加され、大変好評を博した対策講座になつたと思います。

はい、まず富士学院の校舎単位で行っているのが「医学部入試研究会」という勉強会です。この勉強会には全国の100校を超える進学校が参加をしており、高校の進路指導の先生方と共に医学部合格のための様々な勉強会と情報交換会を行っています。また各学校からのご依頼を受け、中・高生を対象とした「校内医学部入試セミナー」を全国の進学校で行っています。2019年

選抜制をとらずに実数で生徒の2人で、1人の医学部合格者を出し続けています。その要因について教えていただけますか？

はい、その前に合格実績の出し方について少しお話しをしてもよろしいですか。塾や予備校を検討する上で「合格実績」というのは大きなウエイトを占めると思いませんので、ぜひ知つておいてほしいことがあります。それは、合格実績については塾や予備校が出している表面的な数字だけではなく、その内訳や出し方についても、しっかりと見てほしいということです。たとえば個人指導専門の塾や予備校が出している実績には、指導した科目が1科目だけだったり、期間が夏休みの数日間だったりのケースも当然あります。大事なのは、その塾や予備校がどれだけ合格に貢献できたかであり、表面的な実績だけでは困れないことも、ぜひご理解いただきたいと思います。

また合格実績の出し方についても、よく見てください。一次合格者を合格者として出しているケースや、のべ人数だけを出しているケースもよくみかけます。一次合格者は二次試験受験資格者であり、当然合格者としてはカウントできません。のべ人数も、学力の高い生徒は一人で複数大学の合格を果たすので、のべ人数では本当の実績は解りづらくなります。ま

はい、2018年は久留米大学医学部のオープンキャンパスの中で、久留米大学の入試問題の解説を含めた入試対策講座を行いました。同じく入試問題の解説を含む入試対策講座を行いました。両大学共にたくさんのお客様が参加され、大変好評を博した対策講座になつたと思います。

はい、まず富士学院の校舎単位で行っているのが「医学部入試研究会」という勉強会です。この勉強会には全国の100校を超える進学校が参加をしており、高校の進路指導の先生方と共に医学部合格のための様々な勉強会と情報交換会を行っています。また各学校からのご依頼を受け、中・高生を対象とした「校内医学部入試セミナー」を全国の進学校で行っています。2019年

はい、その前に合格実績の出し方について少しお話しをしてもよろしいですか。塾や予備校を検討する上で「合格実績」というのは大きなウエイトを占めると思いませんので、ぜひ知つておいてほしいことがあります。それは、合格実績については塾や予備校が出している表面的な数字だけではなく、その内訳や出し方についても、しっかりと見てほしいということです。たとえば個人指導専門の塾や予備校が出している実績には、指導した科目が1科目だけだったり、期間が夏休みの数日間だったりのケースも当然あります。大事なのは、その塾や予備校がどれだけ合格に貢献できたかであり、表面的な実績だけでは困れないことも、ぜひご理解いただきたいと思います。

また合格実績の出し方についても、よく見てください。一次合格者を合格者として出しているケースや、のべ人数だけを出しているケースもよくみかけます。一次合格者は二次試験受験資格者であり、当然合格者としてはカウントできません。のべ人数も、学力の高い生徒は一人で複数大学の合格を果たすので、のべ人数では本当の実績は解りづらくなります。ま

はい、2018年は久留米大学医学部のオープンキャンパスの中で、久留米大学の入試問題の解説を含めた入試対策講座を行いました。同じく入試問題の解説を含む入試対策講座を行いました。両大学共にたくさんのお客様が参加され、大変好評を博した対策講座になつたと思います。

はい、まず富士学院の校舎単位で行っているのが「医学部入試研究会」という勉強会です。この勉強会には全国の100校を超える進学校が参加をしており、高校の進路指導の先生方と共に医学部合格のための様々な勉強会と情報交換会を行っています。また各学校からのご依頼を受け、中・高生を対象とした「校内医学部入試セミナー」を全国の進学校で行っています。2019年



東京都立西高等学校 校内セミナー（東京）



広尾学園中学校・高等学校 校内セミナー（東京）



愛光中学・高等学校 校内セミナー（愛媛）



長崎日本大学中学・高等学校 教職員セミナー（長崎）

まずはお伝えしたいのが、今確実に医学部受験者は少しずつですが減ってきており、今後は以前より合格のチャンスは間違なく広がってきます。ですので、最後まで諦めずに頑張り続けることがとても大事になります。ただ合格のチャンスが広がるとしても、まだ医学部受験が難関であることに変わりはないので、この中でも話をしてきましたように、どうい環境で勉強をするのかが、とても大事になってしまいます。たった合格の上での勝ち取る上で、大学がどうやって合否を判断しているのか、入試の仕組みを知らずして入試は戦えません。入試の方式も一般入試から推薦入試、AO入試、編入試験など様々な入試があり、特に推薦入試は出願

最後に医学部を目指す方々や保護者の方へのメッセージをお願いします

感想文を書いてもらっていますが、医学部入試の情報に対する感謝と共に決意の感想もたくさんもらいます。最近では保護者の参加や教職員の参加が多くなっております。終了後に生徒の皆さんから入試セミナーの評価を受けています。

まずお伝えしたいのが、今確実に医学部受験者は少しずつですが減ってきており、今後は以前より合格のチャンスは間違なく広がってきます。ですので、最後まで諦めずに頑張り続けることがとても大事になります。ただ合格のチャンスが広がるといつても、まだ医学部受験が難関であることに変わりはないので、この中でも話をしてきましたように、どうい環境で勉強をするのかが、とても大事になってしまいます。たった合格の上での勝ち取る上で、大学がどうやって合否を判断しているのか、入試の仕組みを知らずして入試は戦えません。入試の方式も一般入試から推薦入試、AO入試、編入試験など様々な入試があり、特に推薦入試は出願

資格が限られ、一般入試と比べ受験者が少ないため合格のチャンスが広がることになります。

あと意識してほしいのは、医学部入試は将来の医師になる人を選ぶ試験でもあるということです。そのため医師としての様々なかから、今の展望、また合格のポイントなどを成績開示データを用いて詳しく解説を行っています。また「医師になるということ」のテーマで講演も行っており、医師の仕事のすばらしさや、やりがい、またきびしさを含め、今の勉強が全てこれから将来につながっていくことなどの話を通じ、生徒の勉強に対する意識付けなども行っています。

